

日立ダイアグノスティックツール
取扱説明書

HDM-9000

(機能操作編)



このたびは、日立ダイアグノスティックツール HDM-9000をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品の十分な活用と安全なご使用のために、取扱説明書はいつも手元におき、よくお読みいただいたうえで
ご使用ください。

もくじ

安全上のご注意	1
使用上のご注意	4
本体各部の名称と働き	5
本体仕様、構成部品一覧	6
初期設定と ID の確認	
1. 車両への接続と HDM-9000 の起動	7
2. HDM-9000 メニューのアイコンについて	7
3. 設定画面の起動	8
4. 表示言語の設定	8
5. コントラストの調整	8
6. キーパッドのバックライトの設定	8
7. 時計の設定	8
8. 本体 ID の確認	8
診断機能の操作	
1. 操作画面の基本的な流れ	10
2. 車両への接続と HDM-9000 の起動	11
3. 診断ソフトの選択からメインメニューの表示まで	11
4. 故障コードの読取	12
5. フリーズフレームデータ	17
6. 故障コードの消去	19
7. DTC ヘルプ	20
8. データモニタ	20
9. カスタマイズ	22
10. 作業サポート	23
11. アクティブテスト	23
特殊機能の操作	
1. メニューのアイコンについて	24
2. 簡易バッテリーテスト	24

履歴

1. 故障コードの再生	26
2. データモニタの再生	27
3. 保存データの削除	27
保存データをパソコンで閲覧する	29
診断結果を印刷する	30
専用ホームページのご案内	31
保証・お問い合わせ先	32

安全上のご注意 (必ずお読みください。)

取扱説明書には、お使いになる人や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

1. 警告と注意

表示内容を見逃して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の絵表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

2. その他お守りいただく事項について

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

(下記は絵表示の一例です。)



この絵表示は、注意(警告を含む)しなければならない内容です。



この絵表示は、禁止(やってはいけないこと)の内容です。



この絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

 **警告**

<p><u>ギアがパーキング(MT車の場合ニュートラル)になっていることを確認する</u> 測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>サイドブレーキが確実に引かれていることを確認する</u> 測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>小さいお子様の手の届かない場所で使用、保管する</u> 事故やけが、感電の原因となります。</p>	
<p><u>作業サポートおよびカスタマイズは、カーメーカー発行の整備マニュアルにより作業内容を十分理解したうえで、正しい手順で行なうこと</u> 使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。</p>	
<p><u>本体に供給する電源電圧は32V以下とする</u> 破壊、感電、発火する場合があります。</p>	
<p><u>暗い場所で作業を行わない</u> 事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>ぬらしたりしない</u> 火災や感電の原因となります。</p>	
<p><u>故障のまま使用しない</u> 画面が表示されない、スイッチが操作できないなどの故障の状態でご使用しないでください。すぐにご使用を中止してお買上げの販売店にご相談ください。 そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。</p>	
<p><u>USB端子を指で触れたり異物を入れない</u> 事故や感電、火災、本製品の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>直射日光があたる場所や高温になる場所、炎天下の車室内に放置しない</u> 火災や感電、故障などの原因となります。</p>	
<p><u>運転者は運転中にこの製品を使用しない</u> 交通事故の原因になります。 運転者が使用する場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所に止めてから使用してください。</p>	
<p><u>異常のまま使用しない</u> 万一、煙が出ている、変なおいや音がするときは、すぐにご使用を中止してください。 また、お買上げの販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。</p>	
<p><u>ケーブルの被覆が破れた状態で使用しない</u> 火災や感電の原因となります。</p>	
<p><u>分解や改造はしない</u> 火災や感電、故障などの原因となります。</p>	

警告

<p><u>整備の際、排気部などのエンジンの高温部分に触れないように注意する</u> やけどの原因となります。</p>	 
<p><u>ケーブルに足を引っかけて転倒しないように注意する</u> けがの原因となります。</p>	
<p><u>整備の際、手や手袋、衣服などが、エンジンのベルトなどの回転部分に巻き込まれないように注意する</u> けがの原因となります。</p>	
<p><u>車両側ハンドルにHDM-9000本体裏面のスタンドで本体を立てかける場合はHDM-9000本体の落下防止に注意して立てかけ使用する</u> 車両側、本体側の破損の原因となります。</p>	
<p><u>車両側ハンドルにHDM-9000本体裏面のスタンドで本体を立てかけた状態では運転をしない。運転を行う時は必ずHDM-9000本体を車両側ハンドルから取り外す。</u> 交通事故の原因となります。</p>	

注意

<p><u>本製品を長期間使用しない場合は車両から取り外す</u> 車両バッテリーの消耗および発火の原因となります。</p>	
<p><u>本体画面表示部をたたいたり、強く押しったり傷をつけたりしない</u> 画面表示部の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>本体やケーブルが、エンジンのベルトなどの回転部分に巻き込まれないように注意する</u> ショートや断線により、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>本体やケーブル類が、排気部等のエンジンの高温部分に触れないように注意する</u> 事故、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>ケーブルは指定品を使用してください</u> 指定品以外の使用は事故、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p><u>ケーブルを診断機本体に巻き付けしないでください</u> ケーブルの被覆破れ、断線の原因となります。</p>	

使用上のご注意

- 端子部分にエンジンオイルなどを付着させないでください。接触不良の原因となります。
- エンジンオイル、ガソリン、不凍液およびバッテリー液を本体に付着させないでください。本体表面の変質の原因となります。
- アルコールを含む液体で本製品をふかないでください。割れの原因となります。
- イグニッションキーONの状態でもOBDⅡコネクタを抜かないでください。故障の原因となります。
- 気温0℃～50℃、湿度80%以下の環境でご使用ください。
- ケーブルの被覆が破れた場合は、ショートのおそれがありますので、ご使用を中止し新しいものに交換してください。
- 本体は防水されていませんので、水に濡らさないでください。

取り扱いについて

- 衝撃を与えないでください。
本製品を落下、たたかなどして衝撃を与えると故障の原因となります。
- ケーブルを無理に引っ張らないでください。
OBDⅡコネクタやUSBケーブルを外す際など、ケーブルを無理に引っ張ると断線など故障の原因となります。外す際は、コネクタを持って外してください。
- 付属のシガー電源ケーブル以外を本体側電源コネクタに差し込まないでください。
本体、車両側ともに故障の原因となります。

保管場所について

下記の場所には保管しないでください。

- 水のかかるところ
- 強い衝撃が加わるところ
- 気温-20℃以下70℃以上、湿度80%以上のところ
- 結露のあるところ
- 直射日光のあたるところ

本体各部の名称と働き



※ 車両のハンドルに本体を立てかけた状態で運転をしないでください。事故の原因となります。(運転時はハンドルから本体を取り外す)

画面説明

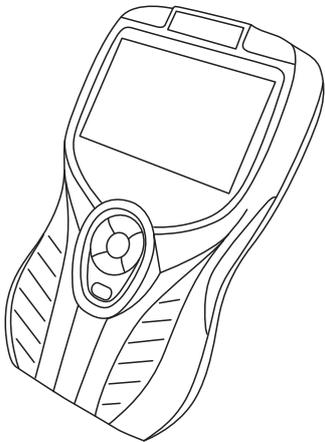
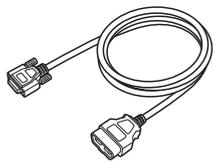
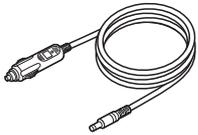
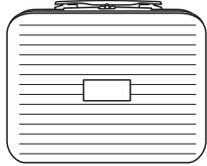
<p>診断 各種診断を行います。</p> <p>履歴 保存した故障コードやデータ等を画面に表示することができます。</p> <p>設定 言語など本体設定を行います。</p>	<p>メインメニュー画面</p>	<p>特殊機能 メンテナンスモード、DPF再生、エーミング、簡易バッテリー計測を行います。</p> <p>OBD II OBDIIソフトを起動します。</p> <p>本体 ID シリアルNo・アップデート期間を表示します。</p>
<p>タイトル 現在のシステムやメッセージが表示されます。</p> <p>システム システム名が表示されます。</p> <p>故障コード数 故障コード数が表示されます。</p>	<p>全自己診断結果画面</p>	<p>バッテリー電圧 接続されている車両のバッテリー電圧をECUから読み取り表示されます。</p> <p>選択カーソル 選択されている項目欄の色が変わり、文字が反転して表示されます。</p>
<p>故障コード P/B/C/Uで始まる故障コード、メーカー独自コードなどが表示されます。</p> <p>データ保存 データを本体内に保存します。[履歴]メニューまたはパソコンで表示できます。</p>	<p>故障コード表示画面(詳細表示)</p>	<p>ページ数 ページ数が表示されます。上下キーで表示内容が変更できます。</p> <p>故障コード内容 故障コードの内容が表示されます。</p>

本体仕様

① 表示部(LCD)	5.0インチ TFTカラー液晶(800×480pixels)
② OS	FreeRTOS
③ 操作キー	ENTER/EXIT/↑/↓/→/←
④ 標準I/F	High speed CAN、Low Speed CAN、Single Wired CAN ISO-9141、ISO-9141-2、KWP2000、SAE-J1708、J1850(PWM-VPW) Generic(pull-up、UART×2)、DDL、MMC
⑤ PCI/F	USB2.0 micro-B(OTG)
⑥ CPU	ARM Cortex M7 216MHz
⑦ ROM(OS)	512KB
⑧ ROM(AP)	8GB
⑨ RAM	256Mb+256Kb
⑩ 内蔵電池	3.0V(時計用)
⑪ 電源電圧	DC8~32V
⑫ 使用温度範囲	0~50℃
⑬ 保存温度範囲	-20~70℃
⑭ 湿度	20~80%RH(ただし結露のないこと)
⑮ 本体サイズ	141mm(W)×237mm(H)×56mm(D)
⑯ 本体質量	470g
⑰ プリンタIF	Bluetooth BR/EDR BLE4.1

※製品仕様および外観は予告なく変更することがあります。

構成部品一覧

 <p>HDM-9000 本体…1台 〔保護フィルムを剥がしてご使用ください。〕</p>	 <p>OBD IIケーブル…1本</p>	 <p>USBケーブル…1本</p>	 <p>シガー電源ケーブル…1本</p>
	 <p>クイックスタートガイド…1部</p>	 <p>キャリングケース…1個</p>	

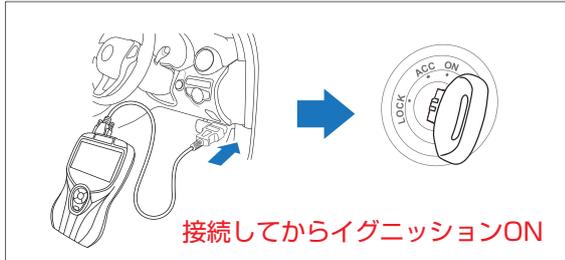
リスト内の製品は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

初期設定とIDの確認

「設定」メニューで本体の表示言語、コントラスト、内部時計の設定が可能です。車両に接続を行って設定を行ってください。また、ダウンロード期限、保証期間、シリアル番号の確認は「本体 ID」を選択してください。

1. 車両への接続と HDM-9000 の起動

- ① HDM-9000本体の DB15ポートに OBDIIケーブルのコネクタを差し込み、ネジで固定してください。
- ② IGN キーが OFF の状態で車両側 DLC コネクタに HDM-9000を接続してください。



車両によっては DLC コネクタに電源線が設置されていない場合がございます。この際は本体キット付属のシガー電源ケーブルを HDM-9000に接続してください。

- ③ HDM-9000が起動し、メニューが表示されます。



2.HDM-9000 メニューのアイコンについて

メニューに表示されている各アイコンの機能は下表の通りです。



① 診断

このアイコンを選択すると診断ソフトの選択画面に進みます。10 ページ以降を参照ください。



② 特殊機能

エーミング、DPF再生、エア抜き等の作業サポート、簡易バッテリーテストを行います。24 ページ以降を参照ください。



③ 履歴

データモニタや故障コードの保存データの再生と削除を行います。26 ページ以降を参照ください。



④ 設定

表示言語、内部時計、コントラストの調整を行います。8 ページを参照ください。



⑤ 本体 ID

シリアル番号、ダウンロード期限、本体の保証期間の確認が可能です。8 ページを参照ください。



⑥ OBDII

OBDIIソフトによる診断を行います。

初期設定とIDの確認

3. 設定画面の起動

- ① メニュー画面で「設定」を選択して ENTER キーを押します。



- ② 設定画面が起動します。上下矢印キーで設定したい項目を選択して ENTER キーを押して確定します。



4. 表示言語の設定

上下矢印キーで言語を選択して ENTER キーを押して確定します。選択できる言語は「日本語」「英語」「ロシア語」です。



5. コントラストの調整

上下矢印キーで 10% ずつ、左右矢印キーで 1% ずつ変更できます。変更が完了しましたら ENTER キーを押して確定します。



6. キーパッドのバックライトの設定

左矢印キーでOFF、右矢印キーでONに切り替えを行い、ENTER キーを押して確定します。



7. メーカーの自動選択

「診断」実行時に車載コントロールユニット内の VIN ナンバーを読み取り、診断ソフトを自動選択する機能です。左右矢印キーで ON、OFF を切り替えます。(トラック診断時は事前に OFF にしてください。)



8. 時計の設定

変更したい項目にカーソルを移動して上下矢印キーで変更します。変更が完了しましたら ENTER キーを押して確定します。



初期設定とIDの確認

9. 本体IDの確認

- ① メニュー画面で「本体ID」を選択して ENTER キーを押します。



- ② 「本体 ID」の画面が表示され本体のシリアル番号、OSバージョン、ダウンロード期間、本体保証期間が表示されます。



診断機能の操作

1. 操作画面の基本的な流れ

HDM-9000は下図の様な操作画面のフローとなります。

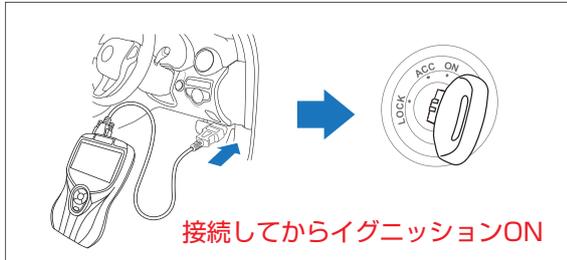
まず使用したい診断機能を選択した後、診断したいシステムの選択、それぞれの診断機能の操作画面の順番に進みます。



診断機能の操作

2. 車両への接続と HDM-9000 の起動

- 1 HDM-9000本体の DB15ポートに OBDIIケーブルのコネクタを差し込み、ネジで固定してください。
- 2 IGN キーが OFF の状態で車両側 DLC コネクタに HDM-9000を接続してください。



Hint 車両によっては DLC コネクタに電源線が設置されていない場合がございます。この際は本体キット付属のシガー電源ケーブルを HDM-9000に接続してください。

- 3 HDM-9000が起動します。診断を選択してENTER キーを押してください。



※ 以下からはトヨタソフトを例にとって操作方法を説明します。

3. 診断ソフトの選択からメインメニューの表示まで

- 1 メーカー選択画面が表示されます。矢印キーでカーソルをメーカー名に移動させて、ENTER キーを押してください。



- 2 診断ソフトが起動し、3の画面に移ります。



- 3 地域設定画面が表示されます。通常は「日本」を選択してください。



- 4 自動検出か手動選択かを選択する画面が表示されます。通常は自動検出を選択してください。



(次ページに続く)

診断機能の操作

- ⑤ 車名、車型の選択画面が表示されましたら、適合する項目を選択してください。



- ⑥ 診断ソフトのメインメニューが表示されます。



4. 故障コードの読取

- ① 矢印キーでカーソルをメインメニュー内の「診断」に移動させて、ENTER キーを押してください。



- ② システム選択画面が表示されます。



- ③ 矢印キーでカーソルを診断したいシステムに移動させて ENTER キーを押して選択します。それぞれの項目を選択した際の操作方法は以下を参照ください。

④ 「全システム」を選択

- 13 ページの「4-1」を参照してください。
- 診断ソフトによっては、この項目の表示が無い場合がございます。

④ 「パワートレイン」等を選択

- 14 ページの「4-2」を参照してください。

④ 「全自己診断」を選択

- 15 ページの「4-3」を参照してください。



「全システム」「パワートレイン」から個別のシステムを選択の方がメインメニューの表示までの時間が「全自己診断」と比べて短くなります。

診断機能の操作

4-1. 「全システム」を選択した場合

故障コードの読取と消去、もしくはデータモニタを行いたいシステムを一覧から選択する機能です。診断ソフトによっては、この項目が無い場合がございます。

- ① 「全システム」にカーソルを移動させて ENTER キーを押してください。



- ② 「全システム」画面が表示されます。診断したいシステムにカーソルを移動させて ENTER キーで選択してください。



- ③ 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」の表示の後、上記の②で選択したシステムの診断メニューが表示されます。



- ④ カーソルを「故障コードの読取」に合わせて ENTER キーを押してください。



- ⑤ 故障コードの読取が実行されます。



- ⑥ 内容によって以下①～③の表示になります。

- ① 故障コードが記憶されていない場合



- ② 現在故障が記憶されている場合
一覧で表示されます。矢印キーでスクロールさせることも可能です。



- ③ 過去故障が記憶されている場合
一覧で表示されます。また、現在故障と同時に読取されている場合は現在故障と過去故障の一覧が重ねて表示されますので、矢印キーの左右で表示を切り替えてください。



Hint 車両によっては仮コード（本故障と判定される前の故障コード）が表示される場合があります。操作方法は現在故障、過去故障と同様です。

（次ページに続く）

診断機能の操作

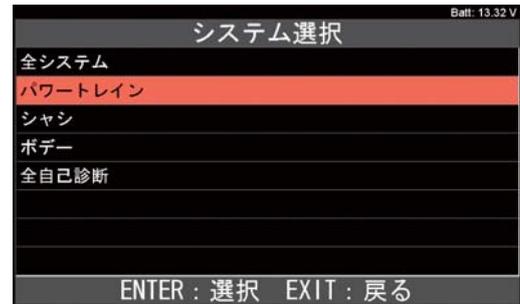
- ⑦ 現在故障、過去故障ともに、それぞれの故障コードにカーソルを合わせた状態で ENTER キーを押すと、詳細表示に切り替えることが可能です。



4-2. 「パワートレイン」等を選択した場合

- 系統毎の一覧から診断したいシステムを選択します。
- 診断ソフトによっては「パワートレイン」「シャシ」「ボデー」の表示が「エンジン」「ABS」「エアバッグ」と表示される場合があります。

- ① 「システム選択」で診断したい系統にカーソルを合わせて ENTER キーを押します。



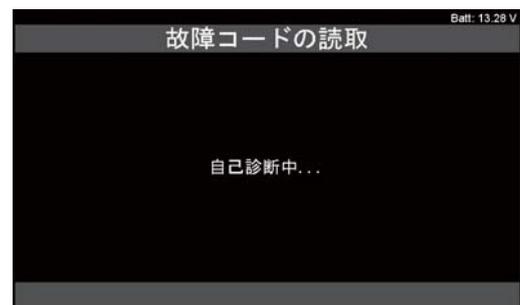
- ② 選択した系統内でのシステム一覧が表示されます。診断したいシステムにカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



- ③ システム毎のメニューが表示されます。カーソルを「故障コードの読取」に合わせて ENTER キーを押してください。



- ④ 故障コードの読取が実行されます。



(次ページに続く)

診断機能の操作

- ⑤ 読取りの結果が表示されます。
その他の操作方法は 13~14 ページの⑥~⑦と同様です。



4-3. 「全自己診断」を選択した場合

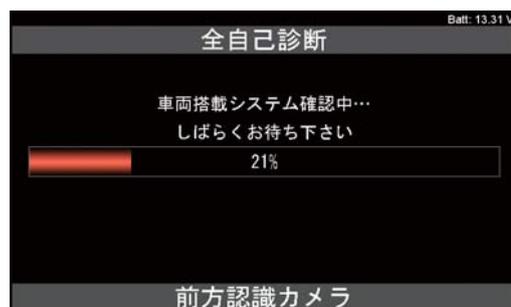
車両に搭載されている全システムの故障コード読取と消去を一括で行う機能です。

また、全自己診断結果からシステムを選択して、個別のシステムの診断メニューを表示させます。

- ① 「システム選択」で「全自己診断」にカーソルを合わせて ENTER キーを押します。



- ② 車両に搭載されている各システムの故障コードの読取を行います。



- ③ 点検結果が画面上部に表示されます。
どのシステムに異常が発生しているかを確認する場合は「診断結果」にカーソルを合わせて ENTER キーを押します。



(次ページに続く)

診断機能の操作

④ 診断結果の一覧が表示されます。

- Ⓐ OK が表示されているシステム
故障コードが記憶されていないことを表します。
- Ⓑ 「数字+DTC」が表示されているシステム
故障コードが記憶されています。故障コードを確認する場合はカーソルを合わせて ENTER キーを押します。⇒⑤に進みます。



⑤ 「イニシャライズ中しばらくお待ちください」と表示された後、④のⒷで選択したシステムの診断メニューが表示されます。「故障コードの読取」にカーソルを合わせて ENTER キーを押します。



⑥ 「自己診断中」と暫く表示された後、読取した結果が表示されます。その他の操作方法は 13~14 ページの⑥~⑦と同様です。

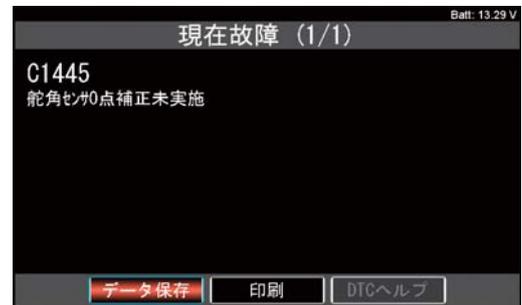


4-4. 個別のシステムでの故障コードの保存

① 「故障コードの読取」の画面で ENTER キーを押してください。



② 故障コードの詳細の画面が表示されます。画面下部の「データ保存」にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



③ データ保存が実行されます。保存の完了後、EXITキーを押すと前の画面に戻ります。

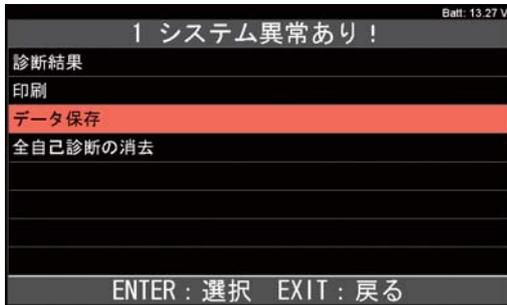


④ 保存データの閲覧方法は 26 ページを参照ください。

診断機能の操作

4-5. 全自己診断での故障コードの保存

- ① 「点検結果」の画面で「データ保存」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② データ保存が実行されます。
保存の完了後、EXITキーを押すと前の画面に戻ります。



- ③ 保存データの閲覧方法は 26 ページを参照ください。

5. フリーズフレームデータ

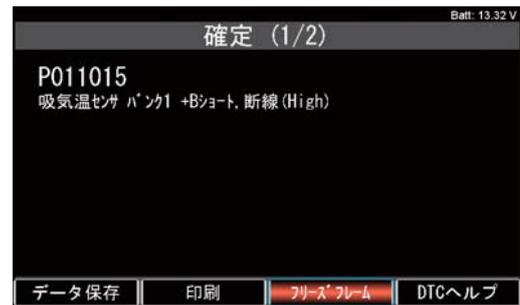
フリーズフレームデータを確認する場合は、次の 5-1、5-2 のいずれかの操作を行ってください。

5-1. 「故障コードの読取」画面からの確認

- ① 「故障コードの読取画面」で右端に FF が表示されている故障コードにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② 詳細画面が表示されます。
カーソルを画面下部の「フリーズフレーム」に合わせてENTERキーを押してください。



- ③ 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示された後に「表示項目選択」が表示されます。
画面下部の「開始」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



(次ページに続く)

診断機能の操作

- ④ 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」 のメッセージが表示された後に「フリーズフレームデータ」が表示されます。
前の画面に戻る場合はEXITキーを押してください。

フリーズ フレーム (P011015)		Batt: 13.34 V
走行距離	8	↑ データ保存 印刷 ↓
走行距離用単位	km	
車速	0 km/h	
エンジン回転数	0 rpm	
エンジン負荷値	0.0 %	
絶対負荷値	0.0 %	
吸入空気量	0.43 gm/sec	
大気圧	102 kPa	

Hint 表示画面は上下キーでスクロールが可能です。また表示画面の下部の **↑ ↓** にカーソルを合わせてからENTERキーを押すと、ページ毎（1画面毎）でスクロールさせることが可能です。

- ⑤ 保存をする場合は画面下部の「データ保存」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。

フリーズ フレーム (P011015)		Batt: 13.31 V
走行距離	8	↑ データ保存 印刷 ↓
走行距離用単位	km	
車速	0 km/h	
エンジン回転数	0 rpm	
エンジン負荷値	0.0 %	
絶対負荷値	0.0 %	
吸入空気量	0.43 gm/sec	
大気圧	102 kPa	

Hint 複数の故障コードのフリーズフレームデータを保存する場合は、それぞれの故障コードに対して①～⑤の操作を行ってください。

5-2. システム毎の診断メニュー画面からの確認

- ① 診断メニュー画面で「フリーズフレーム」のアイコンにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」 のメッセージが表示された後に「フリーズフレーム」が表示されます。フリーズフレームデータを表示させたい故障コードにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。

フリーズ フレーム		Batt: 13.29 V
P011015	確定フリーズ フレーム	ENTER: 選択 EXIT: 戻る
P010014	確定フリーズ フレーム	

- ③ 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」 のメッセージが表示された後に「表示項目選択」が表示されます。

表示項目選択 (76)		Batt: 13.32 V
<input checked="" type="checkbox"/>	走行距離	開始 選択・解除 すべて選択 すべて解除
<input checked="" type="checkbox"/>	走行距離用単位	
<input checked="" type="checkbox"/>	車速	
<input checked="" type="checkbox"/>	エンジン回転数	
<input checked="" type="checkbox"/>	エンジン負荷値	
<input checked="" type="checkbox"/>	絶対負荷値	
<input checked="" type="checkbox"/>	吸入空気量	
<input checked="" type="checkbox"/>	大気圧	

- ④ その他の操作方法は 17～18 ページの 5-1 の③～⑤と同様です。

診断機能の操作

6. 故障コードの消去

故障コードの消去を行う場合は、次の 6-1、6-2 のいずれかの操作を行ってください。

6-1. 個別のシステムでの故障コードの消去

- 1 診断メニュー画面で「故障コードの消去」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 2 「故障コードの消去」画面が表示されます。消去を実行する場合はENTERキーを押してください。中止の場合はEXITキーを押してください。



- 3 ENTERキーを押すと「自己診断の消去中」のメッセージが表示された後、「消去完了」の画面が表示されます。



6-2. 全自己診断での故障コードの消去

- 1 「全自己診断」の後に表示される点検結果の画面内の「全自己診断の消去」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 2 「全自己診断の消去」の画面が表示されます。消去を実行する場合はENTERキーを押してください。



- 3 各システムの故障コードの消去が実行され、最後に「消去完了」の画面が表示されます。消去が完了すると①の画面に戻ります。



※ 画面上部の「全システム異常なし」は全てのシステムの故障コードの消去が完了できた場合にのみ表示されます。不具合が解消されておらず、消去ができなかった場合は「○システム異常あり!」が表示されます。

診断機能の操作

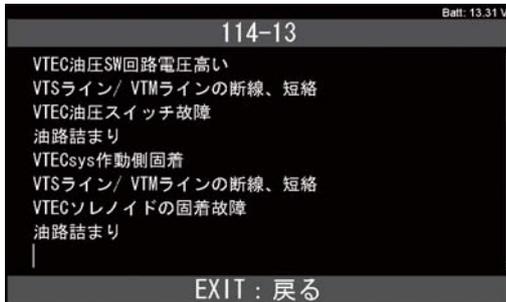
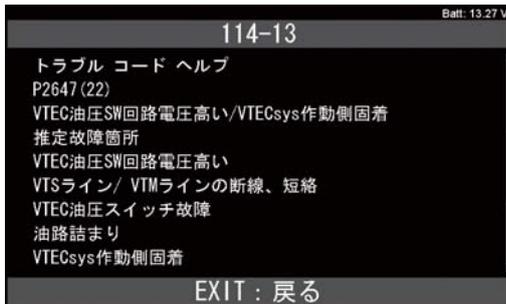
7. DTCヘルプ

故障コードの詳細画面の表示で「DTCヘルプ」の色が反転して表示されている場合は「DTCヘルプ」にカーソルを合わせてENTERキーを押すと、DTCが記憶される検出条件について情報が表示されます。



選択できる場合のみ、次の画面に表示されます

[例] ホンダソフトの例



8. データモニタ

8-1. データモニタの実行

- ① 個別のシステムの診断メニュー画面の「データモニタ」のアイコンにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ② 表示項目の選択画面が表示されます。状況に応じて表示項目の選択を行い、選択の完了後、画面下部の「開始」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ③ 「表示項目選択」で選択された項目でデータモニタが実行されます。データモニタを中止する場合はEXITキーを押します。



※グラフ表示はグローバルOBDIIソフトのみ対応可能です。



表示画面は上下キーでスクロールが可能です。また表示画面の下部の **↑ ↓** にカーソルを合わせてからENTERキーを押すと、ページ毎（1画面毎）でスクロールさせることが可能です。

診断機能の操作

8-2. データモニタの保存

- ① データモニタ実行中に「データ保存」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。

データモニタ		Batt: 13.32 V
車速	0 km/h	
エンジン回転数	0 rpm	
エンジン負荷値	0.0 %	
絶対負荷値	0.0 %	
吸入空気量	0.21 g/s	
大気圧	99 kPa	
インテークマニホールド圧	100 kPa	
エンジン冷却水温	70 °C	

↑ データ保存 印刷 ↓

- ② データ保存画面に切り替わります。
(データ保存の実行中は項目、数値は表示されません)



- ③ データ保存を終了させる場合はENTERキーかEXITキーを押してください。データ保存を実行してから(②の画面から)、ENTERキーかEXITキーを押すまでのデータが保存されます。



- ④ EXITキーを押すとデータモニタの実行画面(①の画面)に戻ります。

8-3. グラフ表示 (グローバルOBDIIソフトのみ)

グローバルOBDIIソフトでは2項目までのグラフ表示を行うことが可能です。(データ保存は不可)

- ① グローバル OBDIIソフトのメインメニューでデータモニタを選択。
- ② 「リスト表示」「グラフ表示」の選択肢が表示されます。「グラフ表示」を選択してください。
- ③ 表示項目の選択画面で任意の項目を2つ選択してください。
- ④ 画面上の[開始]にカーソルを合わせて[ENTER]キーを押してください。
- ⑤ グラフ表示が実行されます。



診断機能の操作

9. カスタマイズ

- 1 ソフト毎のメインメニューで「カスタマイズ」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 2 使用に当たっての注意事項が表示されます。ご確認後、ENTERキーを押してください。
- 3 「カスタマイズ」画面で「カスタマイズ [NEW]」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



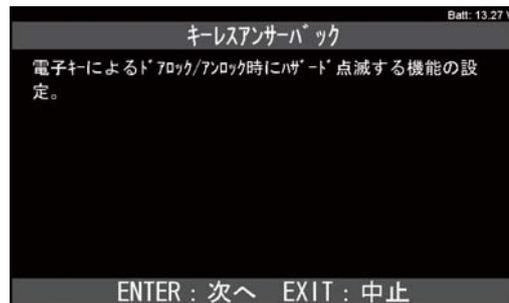
- 4 車両搭載システムの確認が実行された後、システム選択画面が表示されます。カスタマイズを実行したいシステムのカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 5 「システム確認中しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示された後、機能一覧画面が表示されます。実行したい機能のカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 6 個別のカスタマイズ機能の実行画面が表示されます。整備解説書を参照のうえ、カスタマイズを行ってください。



診断機能の操作

10. 作業サポート

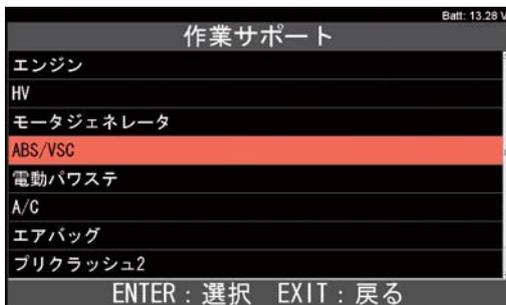
- 1 ソフト毎のメインメニューで「作業サポート」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 2 次の画面で「作業サポート [NEW]」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 3 システム選択画面が表示されましたら作業サポートを実行したいシステムのカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 4 機能一覧画面が表示されます。実行したい機能のカーソルを合わせてENTERキーを押して機能を実行してください。



11. アクティブテスト

- 1 ソフト毎のメインメニューで「アクティブテスト」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 2 「アクティブテスト1」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 3 システム選択画面が表示されましたら、アクティブテストを実行したいシステムにカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- 4 しばらくシステム確認画面が表示された後、機能一覧画面が表示されます。実行したい機能のカーソルを合わせてENTERキーを押して機能を実行してください。



特殊機能の操作

「特殊機能」は各診断ソフトの作業サポート機能を一まとめにし、機能選択の手間を省略化したものです。選択するとメンテナンスモード、DPF再生機能、簡易バッテリーテスト、エーミングモードの実行が可能です。

1. メニューのアイコンについて

それぞれのアイコンをカーソルで選択し、ENTERキーを押すと各機能の実行が可能です。

 メンテナンスモード	① メンテナンスモード ブレーキのエア抜き、整備モード等の作業サポート機能を一まとめにしております。
 DPF	② DPF 日野、いすゞ、三菱ふそう、UDトラックスのDPF再生に関連する機能を一まとめにしております。
 エーミング	③ エーミング エーミングに関連する機能を一まとめにしております。
 簡易バッテリーテスト	④ 簡易バッテリーテスト 車両側DLCコネクタのバッテリー端子の電圧からバッテリーの簡易点検を行います。

2. 簡易バッテリーテスト

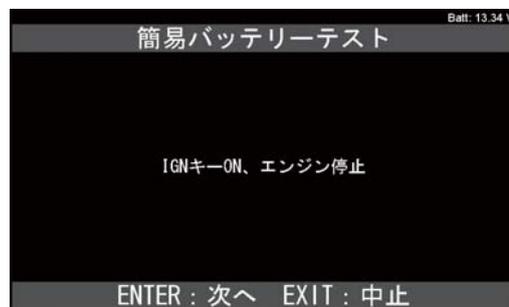
本機能は12Vバッテリーと充電系統の簡易点検が可能です。(HV車、24V車は対象外)

尚、本機能は端子電圧のみで判定を行うため、最終的な良否判定はCCA値等の測定が可能なバッテリーチェッカーによる点検や整備解説書に記載されている点検要領の下、行ってください。

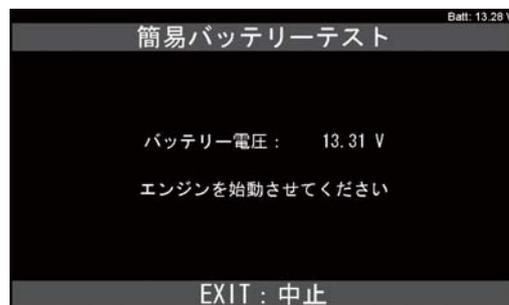
- ① 車両側のIGキーをオンにします。
- ② 「簡易バッテリーテスト」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。



- ③ 車両の状態を確認する画面が表示されます。車両が表示の状態になっていることを確認後、ENTERキーを押します。



- ④ 始動前のバッテリー電圧とメッセージが表示されましたらエンジンを始動してください。



(次ページに続く)

特殊機能の操作

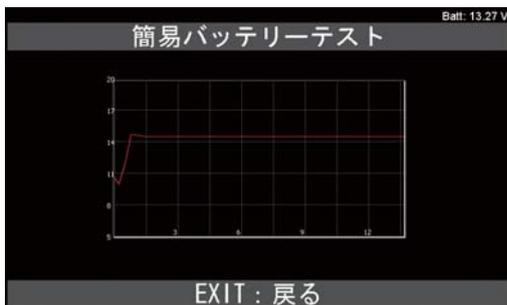
- ⑤ 始動時のバッテリー電圧と充電電圧の計測が開始されます。



- ⑥ 計測された始動前、始動時、始動後の充電電圧値が表示されます。ENTERキーを押してください。



- ⑦ 計測した電圧値のグラフが表示されます。EXIT キーを押してください。



- ⑧ 点検結果が表示されます。



1. 故障コードの再生

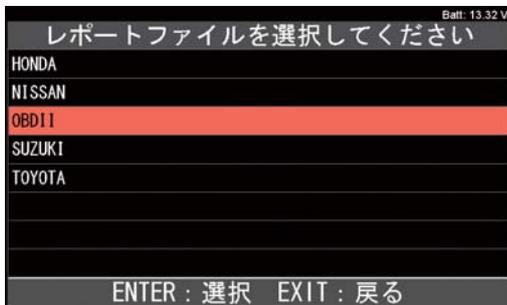
- ① 「履歴」を選択して ENTER キーを押します。



- ② 「再生」を選択して ENTER キーを押します。



- ③ データ保存を実行した診断ソフトの一覧が表示されます。再生したいデータが保存されている診断ソフトを選択して ENTER キーを押します。



- ④ 保存データの種類の選択画面が表示されます。「DTC」を選択して ENTER キーを押します。



- ⑤ 「DTC」の保存データ選択画面が表示されます。再生したいデータを選択して ENTER キーを押します。



- ⑥ 保存したデータのシステムが表示されますので、選択して ENTER キーを押します。



- ⑦ 保存されている DTC が再生されます。



2. データモニタの再生

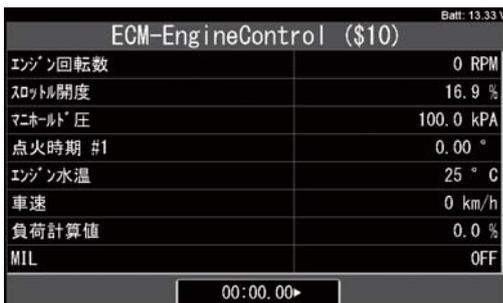
- 26 ページの①～③の手順を行ってください。
- 保存データの種類の選択画面が表示されます。
「DataStream」を選択して ENTER キーを押します。



- 「DataStream」の保存データ選択画面が表示されます。
再生したいデータを選択して ENTER キーを押します。



- 表示項目選択画面が表示されます。表示したい項目の選択を行った後、開始を選択して ENTER キーを押してください。保存データが表示されます。
左右矢印キーを押すと保存データがコマ送りで表示されます。

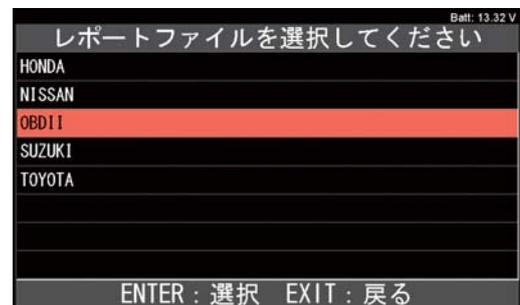


3. 保存データの削除

- 「履歴」で「削除」を選択して ENTER キーを押します。



- 一覧から削除を実行したい保存データがある診断ソフトを選択してください。



- 削除したいデータの種類の選択してください。



- 画面下部の [選択・解除] [すべて選択] [すべて解除] のいずれかを選択して削除するファイルに を入れます。



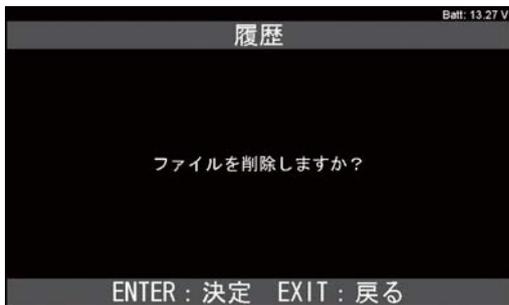
(次ページに続く)

履歴

- ⑤ 画面下部の[削除]にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。



- ⑥ 下図のメッセージが表示されます。削除して良いデータであれば ENTER キーを押してください。

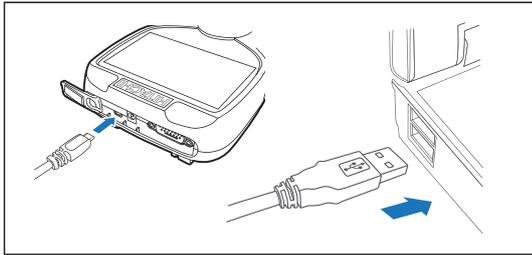


- ⑦ 保存データが削除されました。

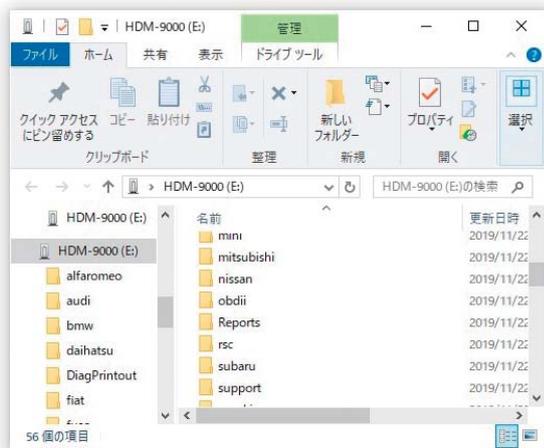


保存データをパソコンで閲覧する (表示例はWindows10での場合)

- ① HDM-9000 とパソコンを付属の USB ケーブルで接続します。



- ② パソコンの画面上に自動再生でHDM-9000のフォルダが開かれます。

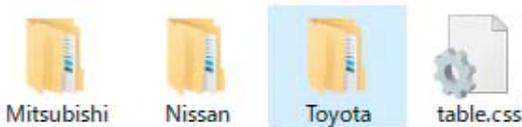


- Hint** パソコンの設定で自動再生が機能しない場合は画面下部のエクスプローラーからHDM-9000を開いてください。

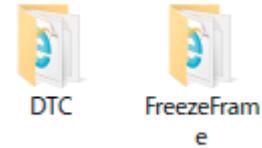
- ③ 「HDM-9000」フォルダ内にある「Report」をダブルクリックしてください。



- ④ データ保存を実行した診断ソフト毎のフォルダが表示されます。フォルダを選択してクリックしてください。



- ⑤ データ保存を実行した機能ごとのフォルダが表示されますので選択してクリックしてください。



- ⑥ 保存ファイルの一覧が表示されます。拡張子が html のファイルを選択してクリックしてください。

名前	更新日時	種類	サイズ
2019-07-25_09.42.29.html		HTMLドキュメント	1 KB
2019-07-25_09.42.29.xml		XMLドキュメント	2 KB
2019-07-25_11.21.06.html		HTMLドキュメント	1 KB
2019-07-25_11.21.06.xml		XMLドキュメント	2 KB
2019-07-25_11.22.21.html		HTMLドキュメント	1 KB
2019-07-25_11.22.21.xml		XMLドキュメント	2 KB
All_2019-06-27_09.48.59.html		HTMLドキュメント	2 KB
All_2019-06-27_09.48.59.xml		XMLドキュメント	3 KB
table.css		カスケードスタイルシ...	1 KB

- ⑦ インターネットエクスプローラーが起動し、ブラウザ上で保存データが再表示されます。

メーカー:トヨタ

システム	状態
エンジン	1 / 2 : P011015 吸気温度センサ バンク1 +Bショート,断線(High) 2 / 2 : P010014 エアフローメータ GNDショート,断線(Low)

- Hint** 保存データの閲覧後、HDM-9000本体をパソコンから取り外す際は内部のファイルの破損防止の為、下記の手順で取り外しを行ってください。

- ① パソコン上のHDM-9000フォルダを閉じてください。
- ② パソコンのタスクトレイの取り外しアイコンをクリックしてください。
- ③ 「OBDII SCAN TOOLの取り出しーHDM-9000」をクリックしてください。(パソコンによっては「Device の取り出しーHDM-9000」と表示されます。)
- ④ 「ハードウェアの取り外し」が表示されてから、HDM-9000本体をパソコンから取り外してください。

診断結果を印刷する

HDM-9000 はセイコーインスツル株式会社のモバイルプリンター（MP-B20）と Bluetooth® 接続をして画面に表示されている内容を印刷することが可能です。初めて印刷を行う際は下記の設定が必要です。

- ① 画面下部に [印刷] のファンクションキーが表示されている画面を表示させてください。



- ② プリンター側の POWER のランプ（緑色）が点滅するまで電源ボタンを長押しして接続モードにしてください。



- ③ [印刷] のファンクションキーにカーソルを合わせてENTER キーを押してください。



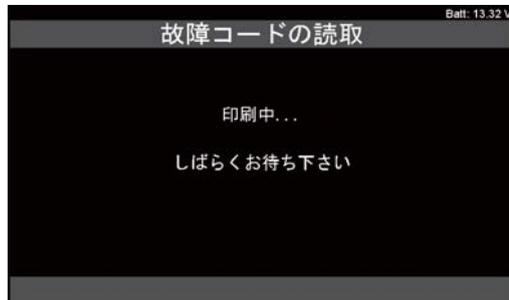
- ④ 「検索中しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示されます。

- ⑤ 接続に成功するとプリンターの型式が画面に表示されます。ENTERキーを押してください。



※ 「プリンターが見つかりませんでした」と表示された場合は手順②を再度行ってからENTERキーを押してください。

- ⑥ 「接続中しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示されたあと、印刷実行画面が表示され、印刷が開始されます。



- ⑦ 以上で接続の設定は完了です。以後、②から⑤の操作は行わなくても、画面上の [印刷] のファンクションキーにカーソルを合わせてENTERキーを押すと印刷が実行されます。

●Bluetooth® は Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。

ホームページのご案内

日立ダイアグモニタ専用ホームページより、HDM-9000 の製品情報や料金についての案内を閲覧することができます。以下の URL にアクセスし、関連ページへおすすめください。

1. 日立ダイアグモニタ専用 ホームページ URL

http://www.hdm.hitachi-autoparts.co.jp/hdm_usr/html/index.php

製品情報の閲覧や取扱説明書 (pdf) などのダウンロード / 印刷が可能です。

その他、製品に関する最新情報やアップデート情報をホームページ上にてご案内いたします。

定期的にメンテナンスを実施いたしますので、詳細につきましてはホームページにてご確認ください。

2. 日立 Astemo アフターマーケットジャパン株式会社 ホームページ URL

<http://aftermarket.hitachiastemo.com/japan/ja/>

保証

保証期間：ユーザー登録から 1 年間

期間終了後 1 か月以内にアップデート延長を申し込みされた場合に限り、本体保証も 1 年間延長されます。

アップデートおよび保証期間は HDM-9000 の電源を入れていただき、「本体 ID」からご確認いただけます。

保証規定

1. 取扱説明書などの注意書に基づくお客様の正常なご使用状態のもとで保証期間内に万一故障した場合、無料にて故障箇所の修理をさせていただきますので、お買い上げの販売店にご依頼ください。
2. 本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については弊社はその責任を負わないものとします。
3. 不当な改造については弊社は一切の責任を負わないものとします。
4. 修理品のご持参、お持ち帰りの交通費、または送付される場合の送料および諸掛りはお客様のご負担となります。なお、ご送付の場合は適切な梱包のうえ、紛失防止のため受け渡しの確認できる手段（簡易書留や宅配など）をご利用ください。
5. 本製品の保証延長期間は、本製品製造廃止後 3 年間とします。
6. 次のような場合には、保証期間内でも保証の対象となりません。
 - (1) お客様による輸送、移動時の落下、衝撃など、お客様の取り扱いが適切でないために生じた故障および損害。
 - (2) お客様による使用上の誤り、各構成部品の紛失、あるいは修理による故障および損害。
 - (3) 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損害。
 - (4) 本製品に接続している弊社指定以外の機器および消耗品に起因する故障および損害。
7. 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合、出張に要する実費を申し受けます。
8. 消耗部品（内蔵電池など）や USB ケーブル・OBD II ケーブル、シガー電源ケーブル、キャリングケースは保証の対象外となります。
9. ご不明の点は、お買い上げの販売店にご相談ください。
10. 本保証に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って本保証によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについて不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
11. 本保証は日本国内においてのみ有効です。

(This warranty is valid only in Japan.)

販売元 **日立Astemoアフターマーケットジャパン株式会社**
〒135-0062 東京都江東区東雲2-10-14

お問い合わせ先

本製品について、わからない点やご質問、故障の場合は、お買い上げの販売店または日立 Astemo アフターマーケットジャパン（株）カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

カスタマーサポートセンター TEL. 03-3527-6323 FAX. 03-3527-6324

■ 営業時間：9：00～17：30（土・日・祝日および弊社休業日を除きます）